

家計調査の結果を見る際のポイント No.3

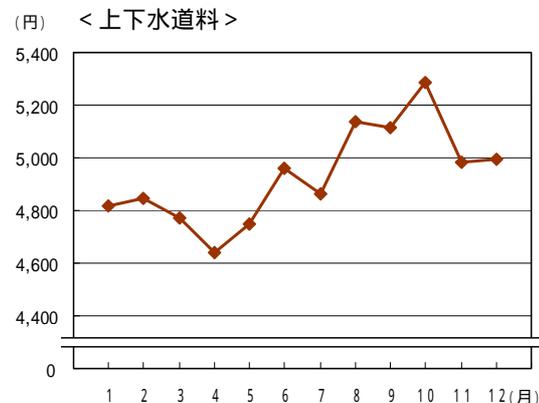
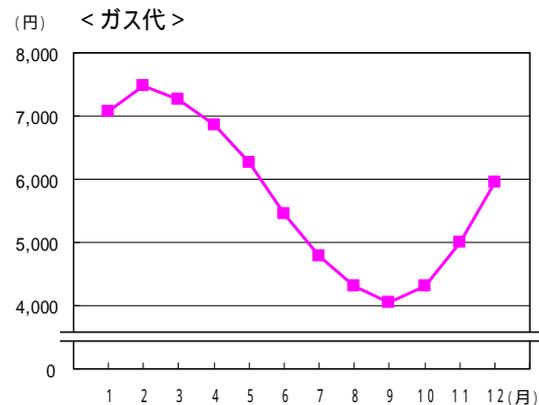
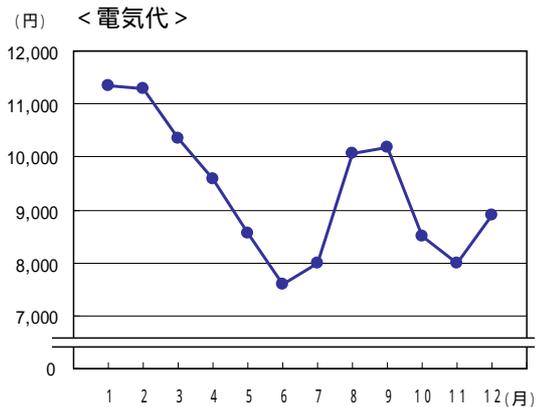
光熱・水道費の利用と支払

今年(平成19年)の8月は各地で最高気温が更新<sup>注)</sup>されるような猛暑となりました。しかし、二人以上の世帯における平成19年8月の電気代をみると、前年同月に比べて、名目で3.6%の減少、物価の上昇分(0.7%)を除いた実質で4.3%の減少となっています。これは、利用(購入)月と支払月の違いによるもので、光熱・水道費の変化を見る際は、次のような点に注意が必要です。

家計調査では、光熱・水道費の支払いについては、請求やメーターの検針があった日ではなく、調査世帯が実際に支払った日(口座振替の場合は口座振替日)に家計簿に記帳されます。

したがって、8月の電気使用量が前年同月に比べて多かったとしても、家計調査では、その結果は支払月となる9月分に表れてきます。平成12年から18年までの7年間を平均した月別支出金額をみると、9月の方が8月よりもやや多くなっています。ガス代も利用月と支払月が1か月ずれ、2月の支出が最も多く、9月の支出が最も少なくなっています。また、夏場に利用がやや多くなる上下水道は、一般に2か月に一度の検針となることから、10月の支出金額が年間で最も多くなっています。

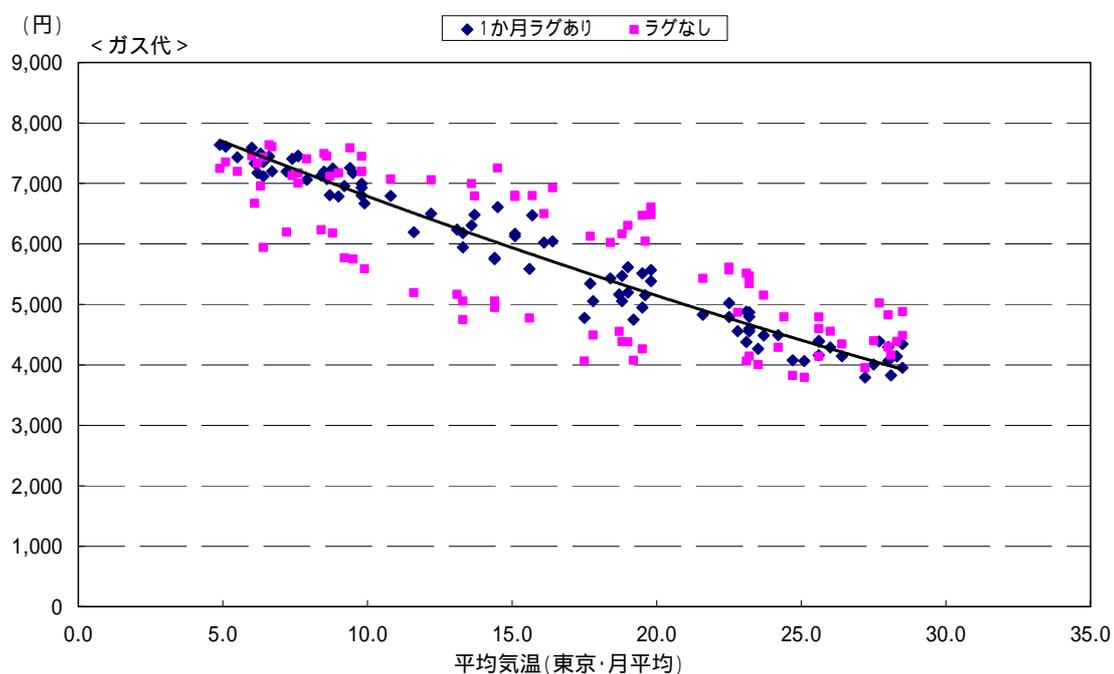
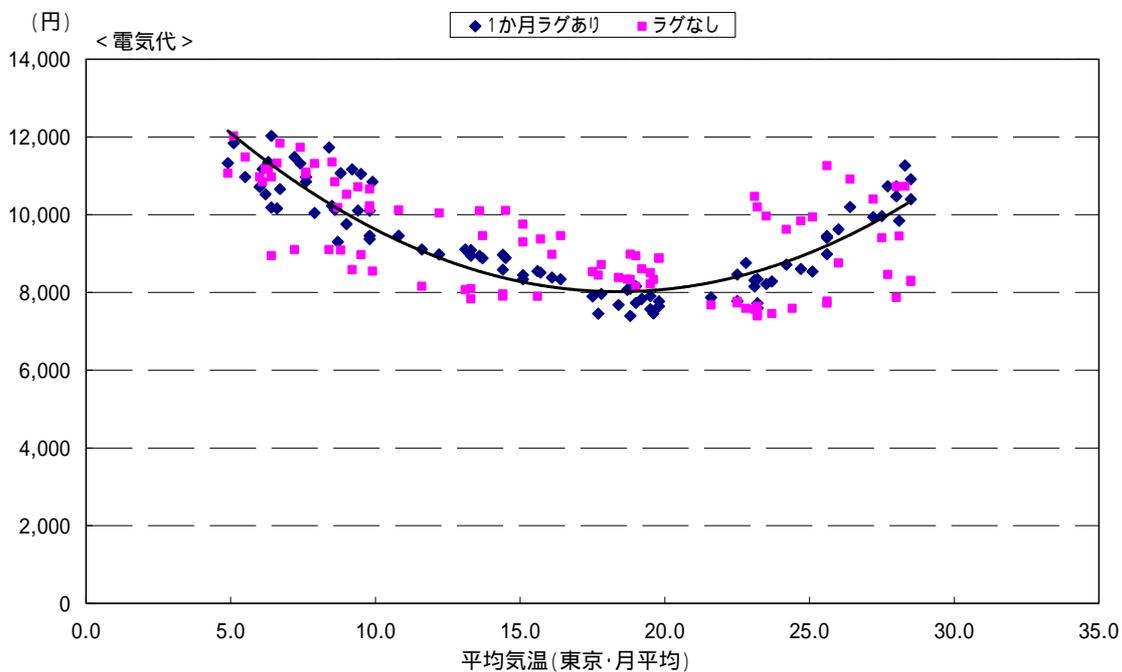
図 電気代、ガス代及び上下水道料の月別支出金額  
(平成12年から18年までの7年間の平均)



注) 8月16日には埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で最高気温が40.9 となり、74年ぶりに国内の最高気温が更新された。

(参考)

図 各月の電気代及びガス代(全国)と平均気温(東京・月平均)の散布図  
(平成12年1月から19年8月まで)



「1か月ラグあり」は平均気温と1か月後の支出金額を散布図にした。「ラグなし」は同じ月の支出金額と平均気温を散布図にした。電気代及びガス代は「1か月ラグあり」の方が平均気温と相関が高いことがわかる。

(平成19年10月5日 作成)